

XX ロロ文字（彝語）

Ch. 118 カラジャン・ヤチ（雲南・昆明）

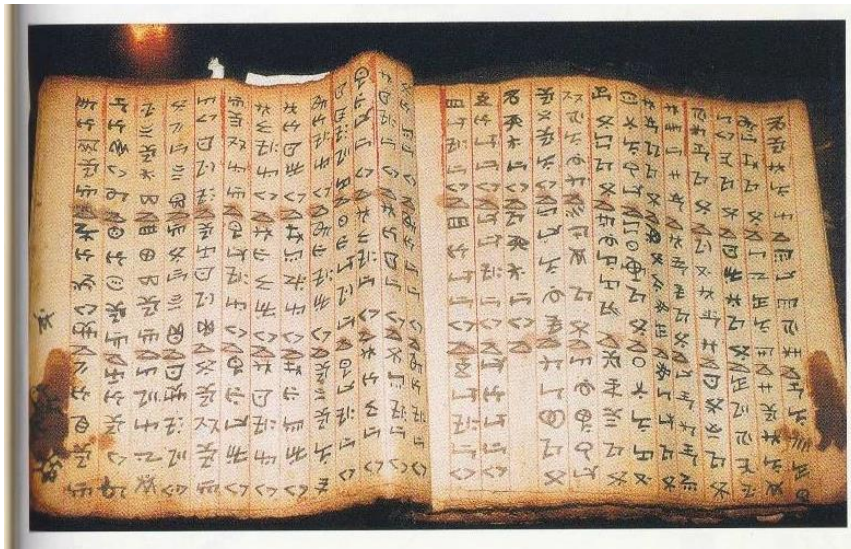


図1 彝文字（栗原悟『雲南の多様な世界』大修館 2013 より）

言語に対して、ポーロは一貫して冷淡であった。滞在中いたるところで出会い、簡単なことなら理解できたであろうと推定される漢字や漢文について、中国の部の最後に一言説明があるだけだったし（VII 磁器）、印刷や書物にしてもそうで、珍しい土産物としてあるいはその旅を証す貴重な証拠品として、書類や書籍の一つや二つは必ずや持ち帰ったと想像されるのであるが、その痕跡はないし、遺品目録にもない。

他の言語についても同様である。それぞれの国あるいは土地で、「自分たちの言語を持つ」との一文はあっても、それがどう独自ののか主要な言語とどう違うのか、それ以上記されることは一度もない。これに先立つチベットのところでもその文があり、この章にもあるのだが、ここではそれに加えて、「とても解り難い」とある。それだけであるが、こうした感想が漏らされるのは珍しく、ポーロの耳にもよほど異様に聞こえたのであろう。とすれば、この地域では最もその数が多かった彝族の言語が最有力視されるのだが。



图2 昆明·滇池

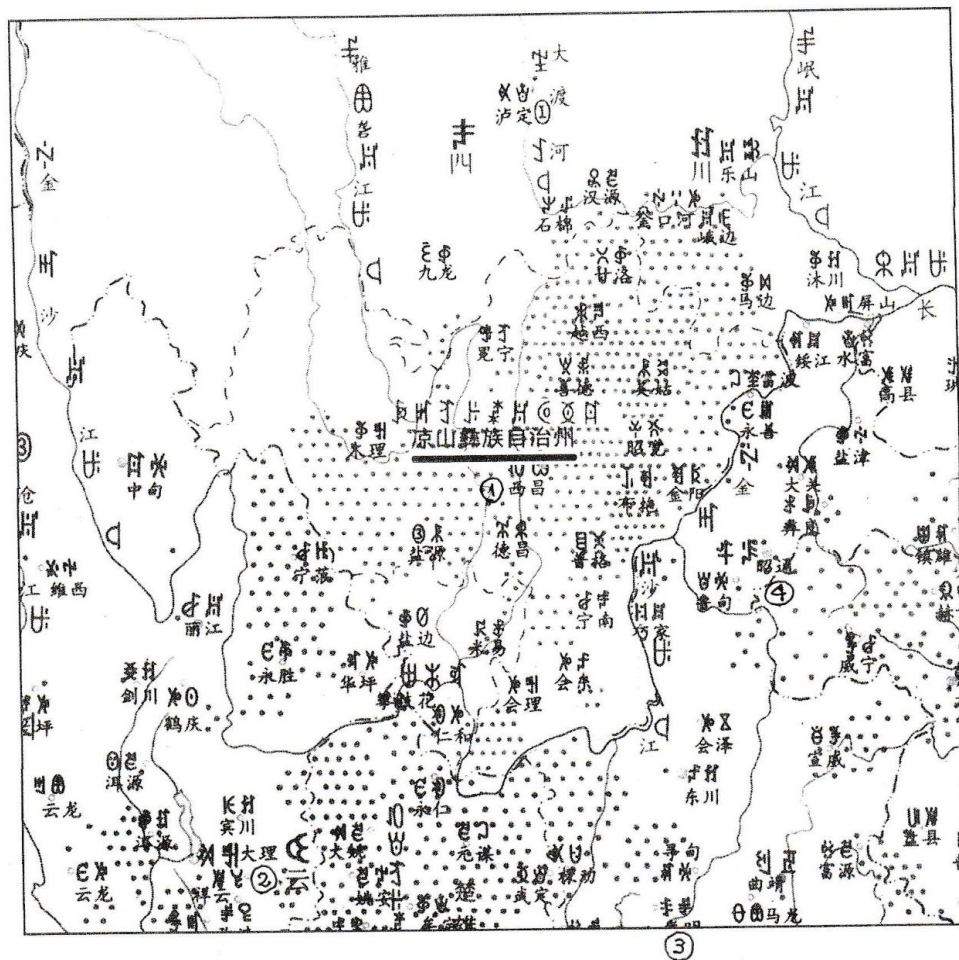


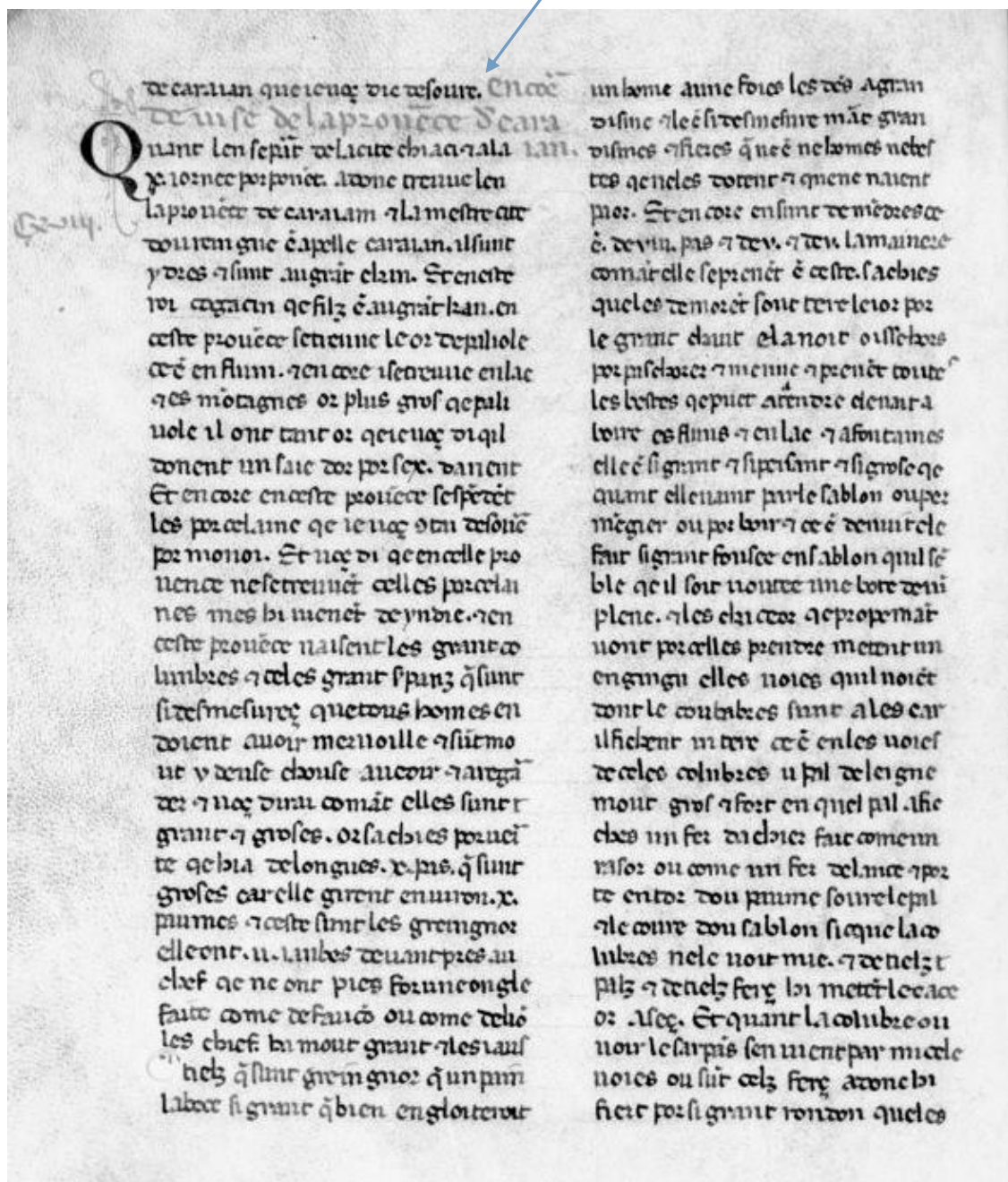
图3 凉山彝族自治州 ①西昌(州都) ②大理 ③昆明(?) ④昭通

(福田和典『凉山彝族の言語と文字』口絵)

grat

Quatre prouées qui e apelles caragi
 en si onq oues. **C**iduse d'lapro
 nant len apse nēce de caragan.
 cest flum adone treime len treime
 en la prouence de caragi que est si
 grant qe bien hui. vii. roiaumes il
 est uex ponent q' sunt y dicit q' sūt
 au grant lan. mes roie en ē son fil
 qe a mon esentement q' mourest
 grant rois q' n'elx q' pōsant il mātēt
 biē s'atere en grant uisite. car il ē
 s'ates q' p'cedon mes. len. ali por po
 nēt quāt il se pāt ton flum q' tenq
 a dit desouit. y. iornee trouant
 ates q' castels. asēz laoi n'asent
 mult buē clamaus il mātēt de
 bestia mes q' de p'ro fir q' l'naent
 de l'atre il on leugates por elz q'
 ē mātē gref aentē de achief
 de ceste anq iornee adone treime
 len l'ameste ate q' celle qe ē chief
 d'ouingne qe apelles iaa. que
 mourest grant q' noble. il b'ame de
 anz q' homes d'as asēz les sūt des
 p'lois maneres car il b'ia iens
 qe aorēt maonier q' y d'ies q' pou
 n'astienz qe sūt nestorm il b'ia
 formēt q' as asēz mes il n'omēu
 ient pū de for mēt por qe il
 ē en ale prouée enferme mes
 menent r'is q' font poison d'is
 cō espees q' mōlt ē b'iaus q' de q' sūt
 deueni le home eue aul' s'ur
 leu il ont monie eue l' mātē

ouenq d'rai car il espēent porcelaine
 blanche celle qe se trouēt en la mer q'
 semētēt au ciel des ebienq. n'aulet
 les. l'xxx. porcelaines un s'ne d'antē
 qe sūt deus uenē. ms gros. q' s'achief
 q' les. vii. s'ates d'antē s'ū ualent un
 s'ates de s'ū il ont p'us s'almace des q'
 il font sal q' de c'est sal mātēt d'ur cele de
 la d'ite auq d'igeleron en agant p'ro
 fir de c'est sal. s'elūq d' q' es neant
 ren se le un touce l'afeme de l'atre
 p'us q' il soit uoluntē de l'afeme o
 nos auon cōte de c'est remigne auq
 otteron tou remigne de caragi mes
 auant uq otteron une couffe que
 ie auoie de mētē que ienq d'igil
 ont unlat qe g'ire en uiron biē. e.
 miles en quel Agnōdisme quāt
 te de poison des meior d'ou mō de
 uisū mōlt grāt de toute faison en
 core uq d' qe il menēt l'achar que
 de g'iline q' de mōton q' de buē q' de
 busal. car les p'oures homes se uōt
 alabeame q' p'entē leste que tāt
 tōt cō se tra l'ois de l'abestes q' l'entē
 menū p'us lemer en la s'ause de la
 gle q' lemeine mātēt q' aul' s'ōt
 de toutes les mines claus. q' les g'ēnlz
 homes menēt en core l'atrs que
 mes il la font menū s'ier menue
 māt p'us l'imetēt en la s'ause de la
 gle mes l'at obone espee p'us la
 menēt aul' biē onos faison la
 cōte. adone uq otterō de la prouée



Ci deuse d' la ¹ prouence de Caraiian².

Quant l'en a pase cest flum, adonc treuue l'en et entre en la prouence de Caraiian, qui est si grant que bien hi a .vii. roiaimes. Il est uer ponent; et sunt ydres et sunt au grant Kan. Mes roi en è son fil que a a non Esentemur, que mout est grant rois et riche et poisant. Il mantient bien sa tere en grant iustice, car il è saies et **preodoumes**. L'en ala por ponent, quant il se part dou flun que ie uoç ai dit de soure, .v. iornee trouuant cites et castiaus asez, la o il naissent mult buen chauaus.

Il uiuent de bestiammes et de profit q'il traient de la tere. Il on lengaies por elz et è maut³ gref a entendre.

A chief de ceste cinq iornee, adonc treuue l'en la mestre cite et celle que è chief dou reingne, que è apelles Iaci, que mout è grant et noble. Il hi a mercheanz et homes d'ars aseç. Les [iens] sunt des plosores maineres; car il h a iens que aorent Maomet et ydres et pou cristienx que sunt nestorin. Il hi a forment et ris aseç, mes il ne menuient pain de forment, porce que il è en cele prouence enferme, mes menuient ris et font poison d'ris con especes que molt biaux et cler et fait deuenir le home eure **ausi com fait le uin**.

Il ont monoie en tel mainere, com ie uoç dirai, car il espencent porcelaine blanche, celle que se trouent en la mer et que se metent au cuel des chienç, et uailent les .lxxx. porcelaines un saie d'arient, que sunt deus uenesians gros. Et sachies que les .viii. saies d'arient fin uailent un saies d'or fin. Il ont **puis** salmace, des quel il font sal; et de cest sal uiuent tuit cele de la contree. Et uoç di que le roi en a grant profit de cest sal. Et si uoç di qu'eles ne curent ren se le un touce la feme de l'autre, puis qu'il soit uolunte de la feme.

Or uos auon conte de cest reigne et uoç conteron dou reigne de Caraian, mes auant uoç conterai une cousse que ie auoice dementique. Le uoç di qu'il ont un lac, que gire enuiron bien .c. milles, en quel a grandissime quantite de peison, **des mejor dou monde**. Il sunt mout grant [³] de toute faison. Encore uoç di que il menuent la char crue de galine et de monton et de buef et des bufal. Car les poures homes se⁴ uont a la becarie et prenent le feie crue tant tost com se trai hors de la bestes, et le trence menu, puis le met en la sause de l'aigle⁵ et le menuie maintenant. Et ausi font de toutes les autres chars. Et les gentilz homes menuient encore la cars crue, mes il la font menussier menuemant, puis la metent en la suse de l'aigle⁶ meslee con bone espece, puis la menuent ausi bien com nos faison la coite.

Adonc uoç conteron de la prouence de Caraian, que ie uoç die desoure.

1 Bn [grant] 2 Bn Caragian (以下全て) 3 Bn mout 3 Bn [et] 4 Bn s'e[n] 5•6
Bn aille

F118 カライアン¹地方について述べる

その川を渡るとカライアン地方があり、そこに入って行くのだが、とても大きく、七つもの国がある。西の方にあり、偶像崇拜で、グラン・カンのもとにある。が、王はその息子で、エセンテムル²という名で、とても偉大な王で裕福で強力である。領土をよく正義のうちに治め、聡明で**経験豊か**だからである。上に述べた川を発って西へ五日行程行くが、町や城市がいっぱいあり、とても良い馬が産する。家畜と土地から得る産物で生きる。独自の言語をもち、とても理解しにくい。

この五日行程の終りに主たる市があり、国の首府でイアチ³といい、とても大きく立派である。商人や職人がたくさんいる。[人々は]⁴何種類もあり、マオメットを崇拜する者、偶像崇拜者、それにわずかだがネストリンのキリスト教徒がいる。麦と米が豊富にあるが麦のパンは食べない、この地方では体に良くないからである。米を食べ、香料とで米の飲み物を造り、とても美味しく澄んでいて、**葡萄酒と同じように人を酔わす**。今から言うようなお金をもっている。白いタカラ貝⁵、海中に見付き犬の首に付けるあれ、を使い、タカラ貝八十個が銀一サジュ、つまり二ヴェネツィアグロスに値する。純銀八サジュが純金一サジュに値することをご承知ありたい。塩の井戸がいくつもあり、そこから塩を作り、この地域の者は皆その塩で暮らしている。いいですか、王はこの塩から大きな利益を得ているのです。またいいですか、他人の妻に手を触れても、それが妻の意思であれば全く気にしないのですよ。

この国について述べたので、次はカライアン王国についてお話ししよう。しかしその前に一つ、私が忘れていたことを話そう。何かといえば、周囲ゆうに百マイルもの一湖⁶があって、ものすごい数のこの世で**最高の魚**がいるのです。とても大きく、あらゆる種類のがいる。さらにいいですか、彼らは鶏・羊・牛・野牛の生肉を食べるのです。つまり、貧しい者は肉屋に行き、獣から取り出されたばかりの生の肝臓をもらい、それを細かく切ってニンニクのソースに漬け、すぐ食べる。他の肉もすべてこのようにする。貴人たちもやはり生肉を食べるが、細かく刻ませて美味しい香料を混ぜたニンニクのソースに漬け、それから我々が焼いたのをするのと同じようにして食べるのです。

では、前に言ったカライアン地方について話すことにしよう。

1) *Caraian*, Bn *Caragian*: 哈刺章 Ha-la chan、雲南のタイ族カラジャン(黒爨)人の地。 2) *Esentemur*: Mong. *Äsän-tämür*、クビライの第5子フゲチの子(在位 1280-1328)。 3) *Iaci*: 押赤/鴨赤/鴨池 Ya-ch'ih、雲南省昆明。 4) Bn *Les [jens] sunt de plosors maineres* [Benedetto:115]. 5) *porcelaine*. 6) 滇池(昆明池)のこと。

「カライアン」とは、今の哈刺章 Ha-la-chan、ここでは雲南 Yun-nan 地方全体を指し、そのタイ族カラジャン黒爨（烏蛮）人の名から来る。「七つの国」とは、雲南行省管下には大理・金齒等六つの宣慰司と麗江宣撫司があったことを指す。「エセンテムル」とは、クビライの第五子フゲチの子で、当時の雲南王である。同地方は、1253 年のクビライによる平定後、1267 年フゲチに封ぜられたが、1270－71 年頃臣下に毒殺され、1280 年（10 月）成人したエセンテムルが父の跡を継いで雲南王となっていた（1328 年没）。とすると、この地方へのポーロの旅は 1280 年以降となるが、先のケンジャンフ京兆府（謎 X）ではマンガラが王（在位 1272－78）であり、年代が合わない。が、今はそうしたことは問わないことにする。そしてこの冒頭部分の最後に、かの文がある。

彝族は、本拠地は四川最南部の大凉山一帯であり（前章 Ch. 117 ガインドゥ建都）、そこの彼らのものと思われる、旅人に妻を提供する風習が語られていることは前に見たが（謎 XVIII「シュールな夫婦」）、彼らはここにもあるとおり「その川」金沙江を越えて雲南にも広がり、当時（も今も）同地方最大の「少数民族」（非漢民族）となり、元朝では羅羅斯ロロス宣慰司の下にあった。祖先は、古代「羌」と呼ばれたチベット系遊牧民で、青海省を中心とする中国北西辺境一帯に散在していたのが（漢代の西羌）、後に四川そして雲南へと南下して来たものである。言語は、したがってチベット・ビルマ語派に属し、ここに詳説する余裕はないが、音声も文字・語彙も文法も漢語とは全く違った（福田和典『凉山彝族の言語と文字』三重大学出版会 2011）。

とすると、「理解しにくい」といった余裕のある程度のものではなく、全く解からなかったであろう。したがってこの文は、同じ中国の領土にあってもこれほど異なる多様な言語があり使われていることの驚きであり、とりわけその違いが顕著なこの地の言語、ほぼ確実に彝語、に代表させて述べたとみるべきであろう。あるいは、今も使われているその独特の文字、ロロ文字（漢字とは全く異なりチベット文字に近い：図 1・4）が、その印象に一役買ったのかもしれない。しかしその文字がいつ頃作られたかは確定せず、ポーロの頃に既にあったかは分からない。もっとも、「解りづらい」との感想が当人のものであれば、彼はこの地に来たってそれを見聞きしたことになるが、四川・雲南といった僻遠の地への旅そのものが可能だったか疑われるうえ、諸民族の言葉の違いが分かるほど耳が肥えていたか、これまでの記述からして覚束ない。何度も述べたが、クビライの西南遠征から持ち帰られた情報から得られたことも十分考えられよう。

そのことはさておくとして、あまりにも曖昧で簡単であるにしても、この地に独特の言語のあることを紹介したのはこの書が初めてであり、他のそうした多くのコトやモノとともに、本書にまた一つの功を添えている。その土地や人口から

してほぼ確実に彝語のことと思われるのであるが、その名(当時であれば羅羅(斯)語か)か何か特徴の一つでも記されてあればと惜しまれる。これが口口語(彝語)のことであることは、まだ一般には知られていない。

次の段に移って、「ヤチ」は唐代の姚州 Yao-chou からで、雲南の首府昆明のこと(元代の押赤・鴨赤・鴨池)。人々は「何種類もいる」とあるが、25 とも言われる同地方の(少数)民族の名があげられるわけではなく、偶像崇拜者・マオメット教徒・ネストリウス派キリスト教徒の、宗教に基づくいつもの三種類だけである。この地のイスラム教徒は、前述クビライの遠征時に従軍した色目人が同地の鎮戍のために定住したことに始まる(愛宕：I, 308)。他の個所でのように「いくらか」との限定のないところから見ると、かなりの数だったのであろう。

食べ物について、「麦のパンは食さない」とあり、「体に良くないから」は不可解だが、米の方が好まれることは、今も小麦の麺より米の麺、米線、が常食されることに残る。その「米と香味料から作られるとても澄んだ」飲み物とは、いわゆる白酒のことで、同地方では高粱・糯米・粳米・玉蜀黍・小麦を原料とする五糧液が知られ、今も生産される。「葡萄酒と同じように人を酔わす」とあるが、その強さの程度は版によって違いのあることは後に見る。

通貨は、ここでは塩ではなく「白いタカラ貝」である。すぐ続いて「海の中に見つかり犬の首に付けるあれ」との追加説明がある。これが写字生の加筆でなければ、読者が怪訝に思うことをルスティケッロが慮ったのであろう。しかし、イタリアでは本当にタカラ貝を犬の首に付けたのだろうか。もしそうなら、そんなものがお金に使われることへの軽蔑の気持ちが含まれていよう。Porcelaines<タカラ貝>の語は、ここが初出になる。その語が‘磁器’にも使われることは、ずっと後のザイトン泉州まで待たねばならない(Ch. 156、謎 VII)。

珍しくここには交換レートが明記され、「タカラ貝 80 個が銀 1 サッジョ、つまり 2 ヴェネツィアグロス、純銀 8 サッジは純金 1 サッジョ」とある。愛宕によれば、貝子 20 索が黄金 1 銭で、明代には 1 策 80 個であった(愛宕：I, 308)。単純に計算すると、ヴェネツィアとこの地の金貨には 2.5 倍の開きがあったことになる。が、その差を利用して儲けたといった話は出てこない。海から遠い雲南地方では、タカラ貝は貴重な財貨であった。古代この地に建国した滇国の遺跡(滇池の南岸)から多数の豪華な青銅製の貯貝器が発掘され、それが採れる南海の国々(東南アジア)と交易のあったことの証となっている。そしてタカラ貝は、伝統的な装飾品として今も使われている。さらに、塩は塩井から造られること、他人の妻に手を出しても妻の意思によるのであれば夫は気に留めないことがここでも記されるが、前のチベットやガインドゥ(謎 XV)のような詳細と発展はない。

最後に、F「一つ私が忘れていたこと」を話そうとして、「周囲 100 マイルの湖」

(滇池、面積約 300km²、周囲約 163km) があることとそこで取れる豊富な魚、そして動物の肉を生で食べる風習とその調理法の説明がある。本書では珍しい料理記事の一つで、生肉を食することが驚きをもって記されているが、野蛮とする偏見は見えない。

川野によれば、これら地方の生肉食の風俗は古くから知られ、北宋・欧陽脩等編纂の『新唐書』(南蛮列伝)には、刺身を記し、「魚を寸刻みにし膾にし、サンショウとグミで和える」と、『雲南図経志書』(明景泰 6 年(1455)序文)には、「土人はおよそ婚礼の宴席にもろもろの生肉を用い、細かく叩き切る。ニンニクのすり身で和えて食し、貴しとする」とあるとのこと(川野悟『雲南の多様な世界』p. 183)。文の一致が興味深いが、これらの書から直接というわけではなく、彼らの風俗については広く、現地のみならず大都にも、伝わっていたということであろう。

以上、最初の段には同地方の一般情報、領土・宗教・統治者・行程・産物・言語が手短に並べられ、次の段ではその首府のこと、人々の種類、食べ物・飲み物、お金と交換率、商業、男女関係がいくらか詳しく説明され、最後の段では特記事項として、その湖と魚、生肉食とその調理法がさらに詳しく紹介されていた。つまり、三部構成からなる典型的な一章である。ポーロのメモ・ノートにはこれらの単語や数字、語句、あるいは短い文が記されていたのを、ルスティケッロが今少し読むに値する文章に書き換えたことが想像される。あるいは、口頭での説明もあったかもしれない。

では、そのメモ・ノートはどのようにして認められたか、情報源は何だったか。この程度の情報は、現地に行かずとも大都でも手に入れることは十分可能だったに違いない。否、現地に行ったところで、ある程度の期間滞在しなければこれらを手際よく集めることは難しかったであろうし、ましてや全て自ら観察し経験することは不可能だった。実際、その詳しさからして自分の体験に基づくのかもしれないと思わせる記事は、最後の生肉食であるが、これとて上に見たごとく、この地の特異な風俗として古くから知られ、書に記されていた。こうした諸国風土記や諸蛮志のようなものがあり、直接参照することはポーロにはムリだったにしても、それをあるいは現地をよく知る人たちから、教えられ話されして知ることは十分可能だったに違いあるまい。

諸版はよく一致し、大きな異なりはない。以下、言語とタカラ貝のところを中心に異なり箇所のみを見てゆく。

Le Livre De Marc Paul

Mais ont a grant bien quant on gist avec elles. et dient que pour ce leur
 fait leurs diex et leur volent nuire. et leur donnent des doles temporelles assez
 a grant foison. Et pour ce sont il a grant largesse de leurs femmes comme se vo
 dunt aux forestiers. Car quant il voient que un forestier veult habiter en
 son hostel d'un an est aduient de le recevoir en son hostel. Et maintenant q
 est habitez le seigneur de l'ostel est lors tantost de son hostel. et commande q
 au forestier soit faite toute sa volente accomplie. Et quant il a ce dit et
 commande si en la a les vignes. ou a les champs de bois. et ne adoune deuit
 que le forestier son soit parais. qui aucune fois demeure trois iours ou quatre
 ala maison de ce d'etre soulaant avec la femme ou la fille ou la seur ou avec
 celle qui l'aura plus d'her le deuit. Et tant comme il demeure leuons. pnt a
 la fenestre ou ala porte le forestier son chapel ou aucune autre enlaigne qui soit
 d'ore a fin que le seigneur de l'ostel congnoisse que adu est encore leuons. et tant
 comme il y aura l'ouage il ny oia enuier. Et est vantage font par tout ce pnt
 ce. il ont monnoie en tel maniere. il ont en en l'age et le pnt a pois. et tant com
 me il pnt il deuit. mais nulle monnoie congne il n'ont. Leur pnt monnoie
 et si font. il pnt a se et le font avec et puis le gattent en soune. et est si gnt
 d'un an que pnt pnt autour d'un liure. Et les nrs. femmes de ce d'vnt un sage
 de fin est un pois. et est de la pnt monnoie que il aduient. il ont des bestes
 qui font le muguet en grant habondance. et ont du muguet a grant foison.
 et ont poisson assez et le teneur du lac que ie vous ay dit que l'en tene les pnt.
 Seles saunages si comme lions ours et dauns et loups et lennes et de muer
 et il assez. et oisaut de toutes manieres ont il en grant habondance. un de
 vigne nont il pas. mais il font vin de soune et de us et de pnt moult bo
 et sont en ceste province qu'on appelle. N'y a un arbre pnt qui a feuilles come
 laurier plus longue et plus estroit. la fleur est blanche pnt comme le guoile
 encore ont gaingembre et hanche en grant habondance et autres d'autres especes
 assez qui ne vendent ouques en nre pais. et pour ce n'en fait lecomig de pnt.
 Or vous laons de ceste province que bien vous en auons compte. et diuons
 encore de ceste contrée mer d'us de gaudu. que quant on a demandie x. iour
 nées toutes fois tournant a ce et d'un an assez. les gens sont de ceste mer d'us
 maniere il ont venison et oisaut assez de toutes manieres. Et quant l'en a
 demandie des x. iournees si trouve l'en un flum qui est appelle bruns ou quel
 fault la province de gaudu. Et en ce flum trouve l'en grant quantite de d'pnt
 oile. et ja aussi amelle assez. Ce flum iut ala mer arabe. Or vous laons de ce
 flum pour ce qu'il ny a chose qui a remembrance de. et vous comptez de d'us
 avec pnt qui a nom amman si comme vous pnt. or cy auant.

Cy dist de la province de amman.
 Quant l'en a pnt ce flum si trouve l'en et entre on en la province du
 amman qui est si grande que il y a vii. royaumes et est tres portee

Et sont ides et est au guire haan. mais un lieu fu en cest roys qui a no
estantenu qui moult est grant roy et noble et puissant. et maintenant
vient la aie en tel grant mistice. car il est sage et predomine. Quant lon
se part du lieu que ie vous ay dit. et lon va cinq iournees par pontent trouue
villes et chateaux altes. Et cest une prouue la ou ualant de moult bons che
uaux. et il vident du labeul et du poulit de la terre. Il ont langage y eue
qui est moult gracie et moult maniere acoustume. Et au chief de ces. y. iour
nees tene lon la maistrice aie. et celle qui est chef du regne. que lon appelle
laci qui moult est grant et nobles. Et y a moult de maritimes et hommes y
dars altes. Il y a de gens de plusieurs manieres. car il y a un pou de crechens y
nestoms. il ont fourme et as altes a grant plante. Mais il ne mangent
mie le pain du fourme. pour ce quil est de la terre ou pays. Mais il men
ent us et en font epias et poison qui moult est bon a lout. et si est fin de.
Il ont monnoie en ceste maniere faite. car il dependent pourcelaines blandes
que lon tene en la mer. et qui se metent au sel comme deuant est dit. Et
valent les.iii. pourcelaines un pois d'argent. qui sont deux gros de mille. Qui
valent. xvi. li. et les pois d'argent a valent un pois de. Et encore ont eue
plus salmes des quelles il sont fait. et de ce sel valent tous eue de la route car
il en ont a valant l'abondance. Et si vous dy pour ce que le seigneur du
pays en a moult grant prouit et a sel. et il ne font mie de. Et si vous eue a
uer la femme de l'ant. pour ce que a soit bien la volente de la femme. Encore
ont il un lac qui dit est lonc cent mille ou quel a moult grant quantite de y
poisson. et a dit on que ce sont les meilleurs du monde et sont moult grans de
toutes facons. Et encore vous dy ce que les gens de ce pays y mangent la d'au
ant. soit de mouton de bucf de bugle de gaine et de toutes autres d'au. Car il y
ont a la bonde et prennent le foie qui a soit comme il est ille de la bite. et le
mellent bien menement. et le mettent en saulle que il sont deue d'au et d'epias
et aussi mangent tuit toutes les autres d'au. aussi bien comme nous me
gous la aie. Or vous ay compte de ce si vous d'au encore de ceste d'ite prou
et de carman que ie vous ay dit cy dessus.

Cy dist de la prouince de Caraian.

Quant l'en a passe ce flun si treuve l'en et entre on en la prouince du Caraian, qui est si grande que il y a .viij. royaumes et est vers ponent. Et sont idles et est au grant Kaan, mais vn sien fil en est roys, qui a nom Essantemur, qui moult est grant roy et puissant, et maintient bient sa **cite** en tres grant iustice, car il est saige et predomme. Quant l'en se part du flun que ie vous ay dit, ~~et~~ l'en va cinq iournees par ponent trouuant villes et chasteaux assez. Et **c'est vne prouince**, la ou naissent de moult bons cheuaux; et il viuent du bestail et du prouffit de la terre. Il ont langaige par eulx, qui est moult griefs **et moult mauuais** a entendre.

Et au chief de ces .v. iournees treuve l'en la maistre cite et celle qui est chief du regne, que l'en appelle Iacin, qui moult est grans et nobles. Il y a moult de marchans et hommes d'ars assez. Il y a de gens de plusieurs maineres, car il y a vn pou de crestiens nestorins. Il ont fourment et ris assez a grant plante, mais il ne menguent mie le pain du fourment, pour ce qu'il est enferme ou pays. Mais il menuent ris et en font espices **et** poison, qui moult est bon a boire et si est fin cler. Il ont monnoie en ceste mainere faitte, car il despendent pourcelaines blanches que l'en treuve en la mer, et qui se mettent **au sel comme devant est dit**. Et valent les .iiij^{xx}. pourcelaines vn **pois** d'argent, qui font deux gros de Venisse, **qui valent .xxiiij. lx¹**; et les [²] **pois** d'argent si vallent un **pois** d'or. Et encore ont eulx puis salines desquelles il font sel, et de ce sel viuent tous ceulx de la contree, car il en ont a tresgrant habondance. Et si vous dy pour verite que le seigneur du pays en a moult grant prouffit de ce sel. Et il ne **font mie force** se li vns **couche avec** la femme de l'autre, pour ce que ce soit bien la volente de la femme.

Encore ont il vn lac qui bien est lonc cent mille, ou quel a moult grant quantite de poisson, et si dit on que ce sont des meilleur du monde et sont moult grans de toutes facons. Et encore vous dy ie que les gens de ce pays y menuient la char crue, soit de mouton, de buef, de bugle, de geline et des toutes autres chars. Car il vont a la boucherie et prennent le soye cru si tost comme il est issu de la beste et les taillent bien menuement et le mettent en sausse **que il font d'eaue chaude et d'espices**, et ausi menguent tuit toutes les autres chars crues, aussy bien comme nous mengons la cuitte.

Or vous ay compte de ce; si vous diray de ceste ditte prouince de Caraian que ie vous ay dit cy dessus.

1 FA¹ livres 2 FA¹ viij

言語は、moult griefs **et moult mauuais** a entendre<とても理解しにくくとても分
かり辛い>と、形容辞が一つ増えた。mauvais<悪い>はここにしてはかなり
調子の強いもので、<粗悪な>といった軽侮の感が含まれているのかもしれない。
写字生による単なる同語反復でなければ、となると、ますますこの感想がポーロ
のものであったかが疑われてくる。住民の種類は「いくつも」あると言いながら、
挙げられているのは少数であるネストリウス派キリスト教徒だけで、他は略され
た。

タカラ貝は、「海に見つかる」は同じだが、se mettent **au sel**<塩に付ける>と
ある。Fは au cuel des chienç<犬の首に>で、手稿ではcとjは見分けがたい時
があり、どこかの段階でその混同があったと考えるほかないのだが、それにし
ても'塩に付ける'とはどうしたことだろうか。しかも、「前に述べたごとく」とある
が、そうした文はどこにもない。ヴェネツィアの貨幣の単位 saies (saggio)<サ
ジョ>は、pois (poids)<重さ>（英語 pound<ポンド>）と一般化された。ヴェ
ネツィア銀2グロスが **qui valent .xxiiij. lx¹**<24 リーヴルに値する>というのは正
しく、最初からあったことも考えられるが、単位が異なっていることからすれば、
後の誰かが書き加えた可能性の方が高い。

男女関係は、il ne **font mie force** se li vns **couche avec** la femme de l'autre<も
し誰かが他人の妻と寝ても暴力を振るわない>（F「触れても気に止めない」、「触
れる」は'手を付ける'の意）と、はっきりされた。しかし露骨であり、こうした
事柄の表現には慎みを保ったルスティケッロのものとは思えない。

生肉食のソースは、**il font d'eaue chaude et d'espices**<熱湯と香味料で作る>。
Fは、la suse de l'aigle meslee con bone espece<美味しい香味料を混ぜたニン
クのソース>。aigle (aille)（イタリア語 aglio）の語が解らなかったのであらう。
あるいはニンク（魔除けに使われた）は、この写本を読むような身分の方々の
口にするものではなかったのかもしれない。

che si chiama videri loro. In questa si appurano. Pro
capello d'altra cosa alla fine si aspiugni. si ch'egli era an
hora la nostra p'che il marito e altro si proficua non di andasse e
infin che gli d'aspiugni. Ista alla cosa mai non di torna et po
sto si fa p'tutta questa provincia ogni anno moneta ch'omni videri
egli prendono lafel et fanno la ch'nozione et grida la informi
et po' questa forma danna questa libra alla grandezza d'apost
tali per che de detto vachono v'aspiugno dno fine et questa e
la parola moneta che egli. Ispandono ogni anno b'ficio che fanno
In questa In grande quantita ogni anno posti assai et ch'ano
h' della go che de detto ene si videri. In questa In grande
et ene d'any ch'aurioli. C'et di anno assai et d'utro uocedi a
uno assai. Vno d'ingonio n'annano masimo vno d'grano et
d'grano che m'ito sp'egio odo buona b'augione In questa p'din
ria nasce d'grano assai. In questa d'ualben p'cholo che fa la
f'che grand' quasi che m'ito d'grano d'grano che fa la
et piu In questa b'ficio fa bianche p'cholo che m'ito il d'grano f'no
ogni anno d'grano In grande p'abondanza et d'annalla e altre
sp'egio assai. che enne d'grano In questa contrada e la f'no
d'grano et d'grano. In questa contrada medesima piu In questa p'ci
no l'omo si parte d'grano d'grano. l'omo che m'ito bene x
giornato p' d'grano et d'grano alla gente e tutta d'grano
n'era d'grano et d'grano man'ora d'grano che de detto era p'a
stato p'osto x. giornata. In questa d'grano d'grano che m'ito b'ficio
et qu'io si f'no la p'abondanza d'grano. In questa f'no si f'no
vno grand' quantita d'grano d'grano. In questa parte d'grano
assai che entra p'osto f'no nel mare e c'ano e la f'no
d'grano f'no d'grano che fa piu d'grano et d'grano
In questa p'abondanza chiamata che a sia che m'ito d'grano
Della provincia d'grano
D'grano l'omo a p'asso p'osto f'no si f'no nella p'abondanza

Della provincia di Charagian.

Quando l'uomo a passata questo fiume, si sen entra nella provincia de Charagian, ch'è si grande che bene v'a sette reamj; et d'è verso ponente; et sono idolj et sono al gran Chane. E rre che v'è è figliuolo del gran Chane, et d'è ricco et poderoso et mantiene bene sua terra e[n] giustizia, et d'è produomo. Quando l'uomo a passato il fiume, ch'io v'o detto di sopra, et d'è jto .v. giornate, si ssi truova citta et chastella assaj. Quivi nascie troppi buonj chavagli; et chostoro vivono di bestiame et di terra. Egli anno loro linguaggio molto grave da intendere.

Di capo di queste cinque giornate si truova la mastra citta, et de chapo de rengnio, ch'è chiamata Jaci, molto grande et nobile. Quivi ae merchatanti e arteficj. La leggie v'è di piu maniere: chi adora Malchometto e chi gli idoli et chi èe chrisiano nestorino. Et v'a grano et riso assaj; **et d'è contrada molto inferma, perciò** mangiano riso; et vino fanno di riso et di spezie, et d'è molto chiaro et buono et d'inebria **tosto** chome il vino. Egli ispendono per moneta porcellane bianche che ssi truovano nel mare **et che se ne fanno schodelle**. Et vagliono le .lxxx. porcellane vn saggio d'argento, che ssono due vinizianj grossi, et gli otto saggi d'artiento fino vagliono vn saggio d'oro fino. Egli anno molte saliere, ove **si chava et** faie molto sale, onde **se ne forniscie** tutta la chontrada. Di questo [sale lo re n'a]¹ grande guadegno. Et non churano se ll'u[no tocca la femina] dell'altro, pure che sia sua volonta della [femina].

Quiv' è un] lago che gira bene .c. miglia, nel [quale a molti pesci grandi, li] migliori del mondo di tutte fatte. [Egli mangiano la carne cru]da e ognj charne. I poveri [vanno a la beccheria, e quando] **s'apre il chastrone o bue** si lli [cavan le budella di corpo, e me]ttole nella salsa dell'aglio et [mangialle; e cosi fanno di o]gnj charne; et gentili huomenj [la mangiano cruda, ma si la fa]nno minuzzare molto minuto; [poscia la mettono nella] salsa et mangialla et [con buone spezie; et mangialla cosi] chome noj la chotta.

Anchora vi chon[teremo di questa provincia] di Charagian medesima.

1 []内は判読不能箇所、Ruggieri より補足。

いつものごとく、忠実で要約的な移し替えである。が、要約のため語句の係り受けがずれ、意味が違ってきているところがある。例えば、F「麦と米が豊富にあるが麦のパンは食べない、この地方では体に良くないからである」は、'麦のパンは食べない'が略され、「麦と米が豊富にある。**とても不健康な土地だから、米を食する**」と、不健康なのは麦のパンではなく、「土地」になった。言語のところは逐語的に訳されている。

タカラ貝は、「海に見つかる」だけでなく、「**それで鉢を作る**」が加わった。この訳者か写字生にその知識があったか、後（Ch. 158 ザイトン）を読んで知っていたか。14世紀後半のフィレンツェともなれば、前者もあり得ないことではない。

塩井から「塩を**掘り**、たくさん作る」と、作業が一つ加わり、「その地域全体に**供給される**」。Fの「その地域の者皆がその塩で生きる」の要約か、「供給される」が最初からあった可能性も無きにしも非ずだが。

貧者は肉屋に行き、「**羊や牛が捌かれると**、その体から内臓を取り出し」、Fでは、羊や牛は土地のものが生のまま食する肉の種類だった。これも、要約に伴う短絡の一つである。

de trouando supra zita e chastele eulle asai. Et uolta **per**
 ano quella vixanza chomo quella de gaudi. Como vixanza
 de bestie assai de oxelli. Inchaio de queste zornate dice se
 troua vno gran fiume cha nome breuis alqual stete lago
 vixanza de gaudi. In questo fiume setroua asai oro de pauola
 supra de questo fiume nasce asai zinnomo e entra quel fu
 me in el mar ozim.

Cap. lxxxv.

Ouando lomo aparisce questo fiume elentra in la
 prouincia de caracay. In laqual e zingue regnumi
 diuoli del gran chaom cha nome csetemur loqual e molto
 potente sauo e zuto e marmem bry son signorar et la
 terra inora iusticia. la gente della chonta e idolatra. Equa
 de lomo se parte da quel fiume el chaualcha zingue zina
 de trouando zita e chastele assai. Inchaio de queste zornate
 zornate setroua lagom zita cha nome zaci laqual e molto
 grande e nobille e fa grande mercha d'or. Inque son zita e
 idolatry e xpian nestom. El ne forme zito e uxo assai. matre
 zente della chonta no marmem pny de formento pa che el no
 ne fmo in quella prouincia marmem pny de uxo et de spezie
 laqual ytu posto in marmem lomo cha nom se eluano. Inuano
 neta. Inuano modo. Inuano porzellane banchie che se
 trouano in el marmem ottrare porzellane val vno pny de
 argento che val do uerogim. Inuano oro pny d'argento per
 val vno pny d'oro per inque son zita se palle in grande
 abbondanza. Inuano d'acqua de pozo del qual palle ahita la
 prouincia. Elora sira grande iusticia. Inque son zita non
 hura lomo selano va al mouer dell'altro pur che se de
 uolonta della femina. Inque son chonta e idolatry che
 uolze bry. Zento diegla in laqual setroua molto peste
 ebom la gente de questa chonta marmem la chaine chra
 dia archotal marmem. Inuano marmem e poi lometeno inuano
 pny d'oro et de spezie e poi lometeno chusi chomo nuy
 marmem la chaine.

Cap. LXXXXV

Quando l'omo à pasato questo fiume, el entra in la provincia de Caraian, in la qual è **zinqe** regniami, et è versso ponente, et è soto el Gran Chaan. Et ène re uno figliulo del Gran Chaan, ch'à nome Esetemur, lo qual è molto posente, savio e richo, e mantien ben **soa segnioria** et la tera in gran iustizia. La zente della chontrà è idolatra. E quando l'omo se parte da quel fiume, el chavalcha zinqe zorna de, trovando zità e chastelle assai.

In chavo de queste zinqe zornade se truova la gran zità ch'à nome Iaci, la qual è molto granda e nobelle, e fa grande merchadantia. In questa zità è idolatri e christiani nestorini. El n'è formento e rixo assai, ma lla zente della chontrà non manzano pan de formento, perché el nonn è sano in quella provincia, **ma fano pan de rixo** e vebono vin de rixo et de spezie, le qual **plui tosto** innivria l'omo cha non fa el vino. I ano moneta in cotal modo: i spendeno porzellane bianche che se trovano in nel mar; le otanta porzellane val uno sazio de arzento, che val do venizian grossi, oto sazi d'arzento fin val uno sazio d'oro fin. In questa zità se fa salle in grande abbondanza e **se fa d'aqua de pozo, del qual salle à tuta la provincia**, e lo re sì n'à grande intrada. In questa zità non chura l'omo se l'uno **va** ala moier dell'altro, purché sia de volontà della femena.

In questa chontrà è uno lago che volze ben zento meglia, in lo qual se truova molto pesie e bon. La zente de questa chontrà manzano la charne chruda a chotal muodo: i lla taiano menuta e poi la meteno in un savor d'aio et de spezie, e poi la manzano chusì chomo nui manzemo la cota.

第 95 章

この川を渡るとカライアン地方に入る。**五つ**の国があり、西方に位置し、グラン・カアンの下にある。エセテムルというグラン・カアンの息子の一人が王で、強力で賢明で金持ちで、**統治**と領土を立派な正義のうちに保っている。土地の人々は偶像崇拜である。この川を発って5日行程進む間、町と城市がいっぱいある。

この5日行程の最後にイアチという大きな市があり、とても大きく立派で商業が盛んである。この町には偶像崇拜者とネストリウス派キリスト教徒がいる。小麦と米が豊富にあるが、土地の人々は、この地方では小麦は良くないから小麦のパンは食べず、**米のパン**を作り、米と香料の酒を飲み、それはブドウ酒よりもよく人を酔わせる。

彼らは次のような貨幣をもっている。海の中に見つかるタカラ貝を使う。タカラ

貝 80 が銀 1 サッジョの値打ちがあり、2 ヴェネツィア・グロッシに相当する。純銀 8 サッジは純金 1 サッジョに当たる。この町では塩を大量に作り、**井戸水から作り、この塩はこの地方全部にあり**、王はこれで大きな収入を手にする。

この町では男は、それが女の望むところであるかぎり誰かが他人の妻のところに**行こうと**頓着しない。この地に周囲百マイルもの湖があり、美味しい魚がたくさんいる。この地域の人々は次のようにして生肉を食べる。細かく刻み、ニンニクと香味料のタレの中に入れ、それを我々が煮たのを食べるようにして食べる。

TA と比べると、ずっと慌ただしい要約である。それだけにズレや違いも多くなる。カラジャン地方にある国は七つではなく、「**五つ**」。言語の文は消えた。イァチの住民は、「偶像崇拜者とネストリウス派キリスト教徒」だけで、マオメット教徒は略された。意図的なものかどうか。タカラ貝は、「海に見つかる」だけで追加はなし。ここでも、「**米のパン**」を作り、米のサケは葡萄のサケ「**よりも早く**」人を酔わす。塩は、「**井戸水から作り、この地方全体にある**」。男は、「誰かが他人の妻のところに**行こうと**」気にしない。va<行く>は、多様な意味を表した。ただし最初の目次では、「妻が誰と寝ようと」となっている。本文と写字生が違ったのであろう。

fructum obtinere habundantiam mereantur. **M**oneta tam uero in hunc modum hinc Virgulas aurcas sub certo pondere faciunt quas pro pecunia expendunt et iuxta pondus uirgule pretium eius est et hec est moneta maior. **A**mor uero talis est. Gal in caldaria coquunt quod postea in formella picunt ubi consolidat et talem monetam expendunt. **O**ctoginta eius de his paulis denariis sanguis unum aureum valentis pro hoc itur per dictas decem et inueniuntur in illa castra et uici multi ubi sunt penna consuetudines quia Caydu ubi etiam sunt uenascentes maxime bestiarum et uolucrum. **T**erminantur decem diem in uicinis flumen quod dicitur breuis ubi terminatur provincia Caydu. **I**n hoc flumine inueniuntur copia maxima aurum quod dicitur de la paglola super trepidum uel fluminis et namouum copiosissime cres-

cat flumen ad mare oceanum terminatur. **D**e provincia Carayam Cap. xxxix. **P**ost transitum predicti fluminis statim intra tur in provincia Carayam que continet regna vii. Est autem subiecta domino magni Kaam ubi rex est filius Cu... et strenuus potens et detestatus qui optine in suo regno sicut iusticia. **H**abita uero per hunc uicinis sunt procedenda uel uel flumen per dictas v. inueniuntur civitates multe et castra in ipsa regione nascuntur equi optimi. **I**bi est lingua propterea grauis et dissimilis ualde. **P**ost quod dictas prefatas inueniuntur principales regum civitas nomine laci nobilis ac magna ubi negociationes plurime sunt. **I**bi habitat etiam quidam natorum si pauci multi de his uero quoniam madometum adorant. **T**urci et risus in magna copia habent

ibi h. truticeuz panē nō cōe
dūt qz. sams ibi nō ē hūi
pams. De riso aut panē
faciūt. faciūt etiā de
diuisis sp. bus potione q
facilm. mebrari facit quā
vinū. Hoc monete expē
dūt porcellanas albas que
reperiuntur in mari. Octo
ginta aut de ipis dantur
pro sagio argenti quod
ad valorē duoz venetoz
ascendit. Octo uō sagia
argenti ascendit ad valorē
unū sagii auri. In hac
civitate fit de aqua pute
oz sal in copia maxia de
quo rex magnus h. m. rion
In hac regione uiri sic se
h. di. s. ut nullus eoz p. displi
cendia habeat si alit. ad v
rorem eoz accedit dūmodo
illa cōsensu pbeat. In hac
regione est lacus hūis i. g. ro
miliana. centus in quo pis
ces magni et optimi capi
unt. Boies regionis hūis
carnes cunctas hoc modo
māducant. Primo eas r

54
minutatis tenit postea i
saporem optie cōfectum
et alius plimis sp. bus po
nūt de sup. post ea come
dūt sic apud nos cōte co
meduntur. De regione qua
dam pūcie et Carayam
i. qua spentes mag. s. C. xl.
Nost. dicessit a Civita
te la. p. x. dictas p
cedit p. pūcia Carayam
ad regni aliud cuius prin
cipalior Civitas d. Cara
yam ubi rex est. Cogacny
noie. filius Eublay regis.
Ibi mūcēt multū de auro
quod d. de la paglola qd
i. Aūb. habet. In aliis aut
lacus et mont. mūcēt
aur. grossius q. sit aurum
de la paglola dat. aut. de ipo
vū. auri sagii pro vi. sagi
i. de argento. Monetam
tū de porcellanis hūis de
quibz superius d. m. est que
de m. dia deferunt. Boies
hūis regionis ydolatre s.
In hac regione nūcūmēt
spentes magni ualde. Mul

De prouincia Carayam Cap.^{III} xxxix.

Post transitum predictis fluminis **statim** intratur in prouincia Carayam, que continet regna .vii. Est autem subiecta dominio magni Kaam, ubi rex est filius Cublay nomine Essentenir¹, uir **prudens** et strenuus, potens et ditissimus, qui optime in suo regno seruat iusticiam. Habitatores patrie ydolatre sunt. Procedendo vero ulterius flumen per dietas .v. inueniuntur ciuitates multe et castra. In ipsa regione nascuntur equi optimi. Ibi est lingua propria grauis et **difficilis** ualde.

Post quinque dietas perfatas inuenitur principalior regni ciuitas, nomine Iaci², nobilis ac magna, ubi negociaciones plurime fiunt. Ibi habitant christiani quidam nastorinij³, sed pauci; **multi de hiis uero** qui Machometum adorant. Triticum et risus⁴ in magna copia habentur. Ibi sed triticeum panem non comedunt quod sanus ibi non est huiusmodi panis. **De riso autem panem faciunt**. Faciunt etiam de diuersis spetiebus potionem que **facilius** inebriari facit quam vinum.

Loco monete expendunt porcellanas albas que reperiuntur in mari. Octoginta autem de ipsis dantur pro vno sagio argenti, quod ad valorem duorum venetorum ascendit. Octo uero sagia argenti⁵ ascendunt ad valorem unum sagii auri. In hac ciuitate fit de aqua puterorum sal in copia maxima, de quo rex magnum habet introitum. In hac regione uiri **sic stolidi sunt ut** nullam causam per displicentia habeat, si alter ad uxorem **eius accedit**, dummodo illa consensum probeat.

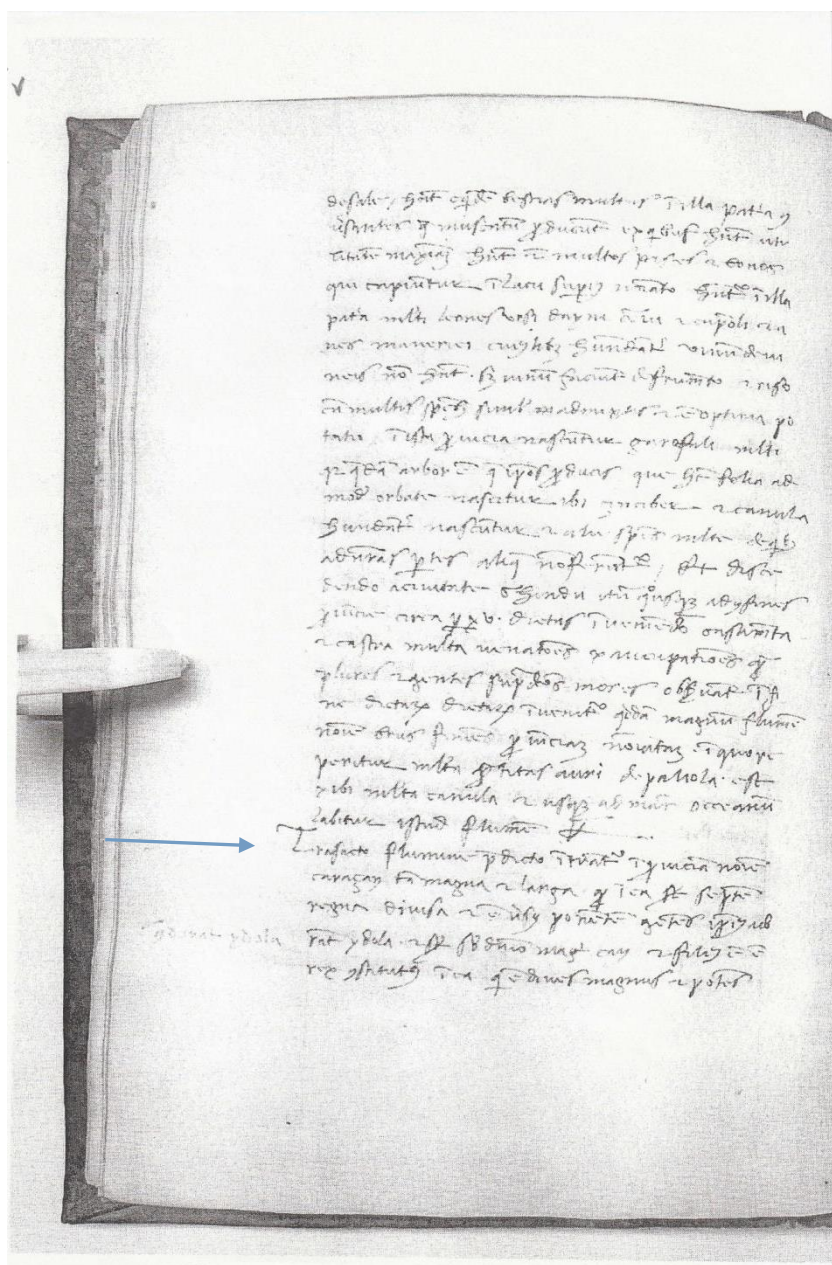
In hac regione est lacus habens in giro miliaria centum, in quo pisces magni et optimi capiuntur. Homines regionis huius carnes crudas **hoc modo** manducant. Primo eas minutatim terunt, postea in saporem optime confectum ex aliis plurimis speciebus ponunt **de super**, postea comedunt sic apud nos cocte comeduntur.

1 または Essentem (コロンブス版 Esencenyr) 2 または Eaci (コロンブス版 Xacij) 3 ママ [nestorinii]
4 ママ [risum] 5 ママ [argenti]

同じく要約的だが VA よりずっと F に近いのは、何度も述べたが、VA のより古く良好な版から訳されたためである。それだけズレや異なりは少ないが、いつものごとくこの修道僧の主観が入る。

「エセンテニル」は、「**思慮深く強く権力がありとても金持ち**」である。言語は、gravis et difficilis valde<とても困難で**難しい**>。同語反復であろうが、「理解するに」の限定がないぶん、適当な訳語を見付けるのがムツカシイ。住民は、

キリスト教徒は「少なく」、マコメットの崇拜者が「多い」。一番多いはずの偶像崇拜者は挙げられていない。意図的なものか。VA と同じく、「米のパンを作る」。米のサケは葡萄のそれよりも「容易く」人を酔わす。夫婦関係は、「この地方の夫は、他の者が自分の妻に近づいても、妻が同意したのである限り何ら不興としないほど馬鹿である」。accredit<近づく>は<～の方に向かう>が原義であるが、この場合は<～と親しくなる>の意味が込められている。sic stolidi<馬鹿である>は、訳者ピピヌスよりは後の写字生のものであると思いたい。事実、この文はコロンブス版 P にはない。



[illegible]

Trasacto flumini predicto, intratur in provinciam nomine Caraçan. Tam magna et larga quod in ea sunt septem regna **divisa**. Et est versus ponentem. Gentes ipsius adorant ydola. Et sunt sub dominio magni Can. Et filius eius est rex constitutus in ea, qui est dives, magnus et potens. [28r] Et terram suam in molta iusticia manutenet, quia sapientia et **probitate** multa ornatus. Et a supradicto flumine discedendo versus ponentem itur per .v. Dietas, inveniendō semper multas civitates et castra, in quibus nascuntur boni equi. Ipsi vivunt de bestiis et fructibus terre. Loquelam habent per se, que potest difficiliter comprehendī.

Prefectis vero .v. dietis, invenitur magistra civitas, capud regni, nomine Yaci, quod valde magnum et nobile. In eo multi sunt mercatores et artifices quam plures. Sunt in eo gentes que Macometi legem observant; sunt et aliqui christiani turchi nestorinj; sed **principale** sunt ydola adorantes. Ibi est terra fertilis in riso et frumento, sed non comedunt gentes panem de frumento, quia in illa patria non est sanus. Comedunt autem risum et potationes fatiunt de riso multum bonas et claras, que, sumpte, **nimis cito** redunt hominem ebriatum. Expe<n>dunt pro monetis porcellanas albas, que reperiuntur in mari et ponuntur ad colam canum. Et octuaginta porcelane valent saçio uno argenti, quod est valoris duorum venetorum grosorum. Habent etiam puteos salsos de quibus salem faciunt; quo sale gentes de contrata fruuntur. Et de isto sale consequitur rex multum redditum et profectum. Gentes vero huius regni non curant si unus alterius tangat uxorem, dummodo de uxoris processerit voluntate. Habent pisces [28v] valde magnos et multos. Gentes vero comedunt carnes crudas galinarum, arietum, bovum et buffalorum. Pauperes quoque homines pergunt ad macellum et emunt figatum crudum sicut tunc extrahitur de animali; et trucidant minutim, et imponunt in salsam aleorum, et **statim** comedunt; **sic vero faciunt de aliis carnibus quibuslibet**; nobiles viri etiam comedunt carnes crudas.

前述の川を渡ると、カラザンという地方に入る。とても広大で、七つの**分かれた**国がある。西の方にある。人々は偶像を崇める。マグヌス・カンの統治下にある。彼の息子がその王に**任ぜられて**おり、裕福で偉大で強力である。聡明さと**誠実さ**をよく備えており、領土をよく正義のうちに治めている。

上述の川を発って西に五日行程進むが、その間ずっと町や城市がたくさんあり、良馬が産する。家畜と土地の産物で生きる。独自の言語をもち、理解するのは難しい。

その五日行程を終えると主たる市があり、王国の首府でヤチといい、とても大きく立派である。商人や職人がいっぱいいる。マコメットの法を奉じる人々がいる。**トルコ人**ネストリウス派キリスト教徒もいくらかいる。**しかし主たるのは**偶像を崇拜する者たちである。土地は米と麦が豊かだが、この国では体によくはないから麦のパンは食べない。その代り米を食べ、米からとても美味しく透明な飲み物を作る。これは**飲むとすぐ**人を酔わす。白いタカラ貝³、海に見つかり犬の首につけるあれ、をお金に使う。このタカラ貝八十個が銀一サッジョ、つまり二ヴェネツィアグロッソに値する。また塩の井戸があり、それから塩を作る。この地域の人々は皆この塩を利用する。また王は、この塩から多大の収入と利益を得ている。この国の人々は、誰か他の者が妻に触れても、妻の意志によるかぎり気に掛けない。とても大きな魚がいっぱいいる。鶏・羊・牛・野牛の肉を生で食べる。貧しい者たちも肉屋に行き、獣から取り出されたばかりの生の肝臓を**買い**、それを細かく刻んで、ニンニクのソースに漬けてすぐ食べる。**他のどんな肉でもこのようにする**。貴人たちも生肉を食べる。

かく、よく一致する。ほとんど逐語訳である。省略も少なく、魚はあるが湖が出てこないのと、最後の生肉食のところで貴人たちの食べ方が簡略化された程度である。一方、住民の宗教は、偶像崇拜者が「**主たるもの**」で、キリスト教徒は「**トルコ人**」と明確にされた。Fでは、ydres<偶像崇拜者>の語が見えるだけで何の説明もなく、確かに事実どおり'一番多い'とかこのように「主たる」の形容辞が元からあったとしてもおかしくない。ただし、「偶像崇拜者」といっても仏教徒のことではなく、祖先崇拜やシャーマニズムを始めとして地域の様々な土俗信仰を指すのは言うまでもない。「トルコ人」(ウィグル人)は、Zではネストリウス派キリスト教徒は全てこの語が被せられる。

Delle condizioni della gran provincia di Caraian, e di Iaci, città principale.

Dopo che s'è passato il fiume predetto, s'entra nella provincia detta Caraian, così grande e larga che quella è **partita** in sette regni, ed è verso ponente. Le genti adorano gli idoli e sono sotto il dominio del gran Can: ma suo figliuolo, nominato Centemur, è **costituito** re di detta provincia, il qual è gran ricco e potente, e mantiene la sua terra con molta giustizia, perché egli è ornato di molta sapienza e **integrità**. E partendosi dal sopradetto fiume si cammina verso ponente per cinque giornate, e si truova **tutt'abitato** e castelli assai. Vivono di bestie e di frutti della terra; quivi si truovano i migliori cavalli **che naschino in quelle parti**. Hanno linguaggio da per sé, il quale non si può facilmente comprendere.

A capo di cinque giornate si truova la città maestra, capo del regno, nominata Iaci, ch'è grandissima e nobile. Sono in quella molti mercanti e artefici e molte sorti di genti: sonvi idolatri e cristiani nestorini e saraceni e macometani, ma **i principali** sono quelli ch'adorano gl'idoli. Ed è la terra **fertile in produr** riso e frumento; ma quelle genti non mangiano pane di frumento, perché è malsano, ma il riso, del quale ne fanno vino con specie, ch'è chiaro e **bianco** e molto dilettevole a bere. Spendono per moneta porcellane bianche, le quali si truovano al mare, e ne pongono **anco** al collo **per ornamento**: e ottanta porcellane vagliono un saggio d'argento, il qual è di valuta di due grossi veneziani, e otto saggi di buon argento vagliono un saggio d'oro **perfetto**. Hanno ancora pozzi salsi de' quali fanno sale, il qual usano tutti gli abitanti: e di questo sale il re ne consegue grand'**entrata** e profitto. Le genti di questa provincia non reputano esserli fatta **ingiuria** s'uno tocca la lor moglie **carnalmente**, pur che sia con volontà di quella.

V'è ancora un lago, che circuisce circa cento miglia, nel quale si piglia gran quantità di buoni pesci d'ogni maniera, e sono pesci molto grandi. In questo paese mangiano carni crude di galline, montoni, buoi e buffali, e in questo modo, che le tagliano molto minutamente, e le mettono **prima in sale**, in un sapore fatto di diverse sorti di **lor** specie: **e questi sono gentiluomini; ma li poveri** le mettono così minute in salsa d'aglio, e le mangiano come facciam noi le cotte.

(liberliber.it より)

R1139 大カラヤン地方と首市イァチの有り様について

上述の川を渡ると、カラヤンという地方に入るが、とても広大で、七つの国に分かれ、西の方にある。人々は偶像を崇め、グラン・カンの統治下にある。しかし、チェンテムルというその息子が同地方の王に任ぜられており、大金持ちで強力で、とても聡明さと誠実さを備えているから、領土をよく公正に治めている。上述の川を発って西へ五日行程進むが、**ずっと人が住み**城市がたくさんある。家畜と土地の産物で生きる。この辺に産する**最良**の馬がいる。独自の言語を有し、たやすくは理解できない。

五日行程の終わりに主たる市があり、国の首都でイァチといい、とても大きく立派である。多数の商人に職人、多種の人々がいる。偶像崇拝者、キリスト教徒、ネストリウス派、サラセン人にマコメット教徒がいるが、主たるのは偶像を崇める者たちである。**土地は肥沃**で米と麦を産する。しかし、麦のパンは体によくないから食べず、米を食べる。米と香昧料から酒を造り、澄んで**白く**、飲むととても美味しい。貨幣に白いタカラ貝、海に見つかるあの貝を用い、**飾りとして首にも巻く**。この貝八十個が銀一サッジョ、すなわち二ヴェネツィアグロッソに値し、良質の銀八サッジョは**完璧な**金一サッジョに値する。また塩井があつてそれから塩を作り、住民は皆それを使う。また、王はこの塩から大きな**稼ぎ**と利益を手にする。

この地方の人々は、誰かが妻の肉体に触れても、それが妻の意志によるかぎり**侮辱されたと見なさない**。また一湖があり、周囲約百マイルで、あらゆる種類の美味しい魚が大量に獲れる。魚はとても大きい。この国では鶏・羊・牛・野牛の肉を次のようにして生で食べる。とても細かく切つて**まず塩に**、様々な種類の彼らの香昧料で作ったタレに漬ける。**これは貴人たちで、貧者は**やはり細かく刻んだものをニンニクのソースに漬け、それを我々が焼いたのをするようにして食べる。

P や F よりも Z とよく一致する。Z¹（ギジ稿本）から訳したのであろう。Z との違いは、それに由来するのがあるいはラムージョによるものか判別は難しい。住民の種類、イスラムは「サラセン人とマコメット（崇拝）者」と二つに別けられた。が、「主たる」のは Z と同じく偶像崇拝者で、オリジナルからあつたのが F で抜け落ちた可能性がさらに高まる。サケが「澄んで**白い**」というのは、濁り酒のような少し白濁したのもあつたのを言うのか、それとも「白酒」の直訳か（F・Z「美味しく透明な」）。男女は、誰かが妻の「**肉体に触れても侮辱されたとみなさない**」と、強い調子になった。これは VB からである（Ano i si questo costume: non ano a vilania se alchuno ano a far **charnalmente** cola moglie＜彼らは次のような風習をもっている：誰かが妻と**肉体的に**（接触）しても侮辱としない＞）。生肉

食は、食べ方が始めのが貴人で後のが貧者と、入れ替わってしまった。

タカラ貝は、「首に巻く」は同じだが、何の首かはなく、代わって「飾りとして」が加わった。これも VB からである (i ne portano **per ornamento** al colo<飾りとして首に付ける>)。この文は、F・Z「海に見つかり犬の首に巻く」、FG「塩に付ける」、TA「それから鉢を作る」、VA・P ナシ、R「飾りとして首に付ける」と、版によって違った。ところがもう一つある。愛宕訳で、「ほらあのイタリアの女房たちがしている高い飾りカラーによくついているあの貝である」(I, p. 306)とある。しかしそうした語句は、その訳の底本リッチ Ricci の英訳にもその原本ベネデット Benedetto のイタリア語訳 (si mettono al collo dei cani<犬の首に付ける>) にも、私の知る限り他の稿本にも、ユールやムールら近代語版にもどこにもない。ナゾである。どこかから取ってこられたに違いないのだが、それとも我々が訳者は想像力豊かな人であったか。

この章は、以上のような様々な異なりはあったが、それとて小さなものばかりでまた散らばり型で、転記や訳に伴うズレともいえるものであった。どの版も基本的にはよく一致し、大きな異なりや特別記事はない。そのことは、F がオリジナルに近い姿を保っており、他はその F かそれに近い写本から写されたり訳されたものであることを示す。また、どの事項や記事も手短にバランスよく羅列されており、興味深い事柄が多いにもかかわらず（例えば前章 Ch. 117 ガインドゥ建都には Z におそらく同じ彝族のユニークな夫婦の記事があった：謎 XV シュールな夫婦）長い特別記事のないこと（次章 Ch. 119 カラジャン大理には大蛇（ワニ）の長い記事がある）は、後の加筆がないこと、つまり 2 次的編纂がこの章にはなかったことを示すであろう。

さて、この謎シリーズは、マルコ・ポーロの書はまず「何（いったい何のこと）が何処（どの写本）に如何に（異なって）誰（情報提供者かマルコかルスティケッロか後の写字生・訳者か）によって」書かれたのか、を見ることが必須との考えから、その旅のうち中国の部に限って、全く知られていないもの（例：I 懸棺・VI 順濟橋・IX 浦西福寿宮・X 九曲溪・XI 水西大橋・XV シュールな夫婦）、はっきりとは認識されていないもの（II 三国志・III 安順橋・VIII ポーロ一家・XIV ヨハンネス vs 金王・XVII アラン人・XX ロロ文字）、よく知られているが興味深いもの（VII 磁器・XII 京兆府・XIII 范成大・XVIII バイアン・チンクサン）・重要なことが記されているもの（V 三年統治・XVI マルサルキス）、版による異なりが大きいもの（IV 盧溝橋・XIX 西湖・王宮・ファクフル王）、を選んで、代表的な 7 つの稿本を複写・転記・和訳（F・Z・R）・英訳（F）して異同を検証し、併せてその人・旅・書の謎に迫らんとするものであった。その解明に成功したとはとても言えないが、何がしかの手掛かりは掴むことができたのではないかと思う。

同書のその部（Ch. 105-130 内陸部、Ch. 131-156 沿海部）はまだ多くの章が残っており、他にもそうしたものは多いが、いったんここで中断することとし、次は大都の部を順を追って取り上げたい。ただし、再開時期は未定である。

頭子音 母音		兩唇音						唇齒音	
		破裂音				鼻音		摩擦音	
		無聲		有聲	有聲	無聲	有聲	無聲	有聲
		無氣	有氣		鼻冠				
		b	p	bb	nb	hm	m	f	v
it	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
i	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
ip	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
iet	ᵀ	ᵀ		ᵀ					ᵀ
ie	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ		ᵀ
iep	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ		ᵀ
at	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
a	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
ap	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
uot							ᵀ		
uo	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ		ᵀ	ᵀ		
uop	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ		ᵀ	ᵀ		
ot	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ		ᵀ
o	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
op	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
et									
e	ᵀ	ᵀ		ᵀ			ᵀ		
ep		ᵀ		ᵀ					ᵀ
ut		ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
u		ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
up		ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
ur		ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
yt		ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ		ᵀ	ᵀ	ᵀ
y		ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
yp		ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ	ᵀ
yr		ᵀ	ᵀ		ᵀ	ᵀ			ᵀ

図4 規範彝文音節表（一部）（福田和典『彝族の言語と文字』p. 77）